



# 泉新だより

令和 5年 5月 1日  
練馬区立泉新小学校  
校長 宮崎 晴美

教育目標 : 思いやりをもち助け合う子 よく考え進んで学ぶ子 健康でやりぬく子

## タイムパフォーマンス ～時間をかけたからこそその成果～

校長 宮崎 晴美

今、若者を中心に「タイムパフォーマンス」という概念が注目されています。タイムパフォーマンスとは、時間に対する満足度を求める「時間対効果」を意識した消費者の行動を指すものです。例えば、動画の“倍速視聴”や、「Tik Tok」などの“短縮動画視聴”、メールをチェックしながらテレビを見る“ながら視聴”、楽曲のイントロやアウトロを飛ばしてサビだけを聞く等の行為がタイムパフォーマンスを意識した行動です。

スマートフォンやPCといったデジタル技術が発展したことにより、動画や音楽、ニュースなど幅広い情報をいつでもどこでも手元の端末操作だけで簡単に収集できるようになりました。膨大な情報の中から効率的に情報を収集したいという考えは、若者のみならず、子育て世代や働き盛り世代など時間に追われる人たちにとっても有効な考え方です。タイムパフォーマンスを求める人々の根底には『時間が惜しい』という共通した感覚があります。しかし、時間が惜しいという感覚をもつ人は、『時間がないから時間を大切にしたい人』と『待ちたくない、楽しいところだけ味わいたい人』の2種類に分けられるのではないのでしょうか。

人類の歴史でみれば、私たちは太古の昔から合理性や効率性を求めて生きてきました。18世紀前後の第1次産業革命を機に、合理性を求める価値観がさらに加速。21世紀に入ってからではデジタル化によって、さらに強化されたといわれています。ネットの普及で効率的な情報収集が可能になり、SNSでは自分にとって有益な情報だけ受け入れる傾向が強まったようにも感じます。そうして、さまざまな物事を“合理的なほど良い”とする価値観が広まったのだと思います。

このタイムパフォーマンスの考え方を小学生に当てはめてみましょう。

『テレビを見ながら宿題をする』…これは、昔からある正にタイムパフォーマンスの高い行為です。しかし、学習効果としては、極めて低いことを私たち大人は知っています。

『社会科見学で話を聞きながらメモをとる』…いかに速く、要点を落とさずにメモをとることが勝負です。その代わり、帰校後、新聞にまとめるときには時間をかけて丁寧な字で書き上げます。

『タイムラプス動画を見て天気の変り変わりや、植物の成長の様子を知る』…動画を活用すると早送りで変化の様子を観察することができ、とても便利です。立ち会うことのできない場面も簡単に見ることができます。しかし、時間とともに変化する自然の様子は、実際の時間を費やしながらか観察の方がより理解度が高く、次なる課題の発見にもつながります。

『書籍を手にするのではなく、ネット検索のみで調べ学習を進める』…ネット上には、嘘や誤った情報も多数あります。自分の都合のよい情報ばかりに目がいき、よく確かめずに信じてしまったり拡散してしまったりする恐れがあります。

『先生や友達の話最後まで聞かずに自分の思いだけを話したり行動したりする』…早合点が癖になり、知識の習得が遅れます。また、他者との共同が難しくなってしまいます。

集団の生活の場では、みんなとペースを合わせるために「早くしましょう」と声をかける場面があります。しかし、同時に「もっとゆっくり～しましょう。」と助言することもよくあります。

『一文字一文字丁寧に時間をかけて書く平仮名や漢字の学習』…ゆっくり丁寧に書くことで正しい字形が身に着きます。宿題ではタイムパフォーマンスを高めるために、乱雑な字になることもしばしば見かけます。

『よく噛んで食べる給食の時間』…消化吸收のためには、よく噛んで食べるのが必須です。早く食べて本を読みたいとか、おかわり争奪戦のための早食いは禁止です。

合理性を追求しタイムパフォーマンスを高める考えに反対ではありませんが、時間をかけることで大きな成果を得る場面がたくさんあることも忘れてはなりません。基礎基本を身に付ける時期だからこそじっくり時間をかける必要があるのです。短い時間軸ではデメリットでも長い時間軸で見るとメリットになることも多いはずですよ。